

第1回「未来の教室」とEdTech研究会

北野 幸子

神戸大学大学院人間発達環境学研究科

sachikita@panda.kobe-u.ac.jp

2018年1月19日

はじめに:これからの時代を生きる 子どもたちに育みたい力

変化の時代

国際化、情報化、人工知能化時代、多元文化時代

21世紀型スキル／コンピテンシーを育む

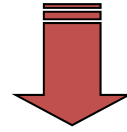
乳幼児期の教育＝人格形成と学びの基盤づくり

Gutman,L.M.,& Schoon,I.(2013).*The impact of non-cognitive skills on outcomes for young people*. Education Endowment Foundation.

文部科学省(2016)「幼児期の非認知的な能力の発達をとらえる研究－感性・表現の視点から－」『平成27年度 文部科学省「幼児教育の質向上に係る推進体制等の構築モデル調査研究」いわゆる「非認知的な能力」を育むための効果的な指導法に関する調査研究』

OECD・ベネッセ教育総合研究所(2015)『家庭、学校、地域社会のける社会情動的スキルの育成 国際的エビデンスのまとめと日本の教育実践・研究に対する示唆』

暗記型・記憶型・結果主義



活用型・展開型・文脈主義へ

子どもの**発達**にふさわしい実践(DAP) 子どもの**主体性**の尊重

乳幼児教育の独自性＝経験主義教育（教科主義教育ではない）

●家庭保育との違い：集団教育の醍醐味

- ・多様性への寛容性を育む：社会性、人権意識
- ・豊かな経験を保障する：多方面への知性の扉をひらく

●小学校以降の教科主義教育との違い **経験主義教育**

- ・リアリティ、自明性、必然性
- ・汎用性と応用性

アクティブ・ラーニング

乳幼児教育のこれから

PECERA(環太平洋乳幼児教育学会) <http://www.pecera.org/>

2000年設立

2011年大会 神戸大会

Evidence Based Practice in Early Childhood Care and Education:
promoting professionalism in the field

日本支部 HP <https://sites.google.com/site/pecerajapan/home>

日本支部 FACEBOOK <https://www.facebook.com/pecera.japan/>

就学前教育の発展

乳幼児教育制度改革のトレンド

- 管轄・カリキュラムの一元化
- 保育者の高度化

カリキュラム改訂のトレンド

- 言葉(コミュニケーション、人間関係形成スキル)
- 数理
- シティズンシップ教育(ESD)

保育の質研究のトレンド: 構造の質、プロセスの質、子どもの育ちと学びの姿 (Outcome)の質

国際比較研究(制度の紹介等) (オーバーヒューマー等(2004)等)

↓

構造の質の国際比較／行政との連携/制度研究(OECD,SS、UNICEF(2008),EIU(2011)等)

↓

園評価:構造評価

↓

プロセス(相互作用)評価

子どもの育ちや学びの姿(Outcome)とのクロス、縦断研究

脳科学研究、ホルモン測定、アレルギー測定等

↓

地域・園の個別化、条件要素の多層化

家庭環境(経済・文化的背景、連携) 養成・研修・ワークフォース

↓

質評価から質の向上の方法研究(Quality Improvement)

評価研究から、アクション・リサーチ、質の向上の方法研究:研修研究など

省察研究、継続研修、公開保育など

*北野幸子(2017)「海外における幼児教育の質に関する研究の動向」国立教育政策研究所『幼少接続期の育ち。学びと幼児教育の質に関する研究』報告書 pp.122-133

乳幼児教育の質の維持・向上

0. 効率化と教育特化(出欠管理、バイタル、物流、その他業務)

1. 乳幼児教育の構造・環境・相互作用評価の多層的導入 第三者評価

ECERS、SSTEWS、CLASS、CIS、SICS等との連動

国立教育政策研究所・日本版開発中のものなどの活用

2. 保育実践のモニタリング

遊びと生活の中の豊かな経験の可視化と整理

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(要領・指針)の活用

ドキュメンテーション、ポートフォリオ、ラーニング・ストーリー

保育者によるアセスメント等による「カリキュラム・マネジメント」

Harlan & Rivkin(2013)*Science Experiences for the Early Childhood*

*Years*項目との比較

乳幼児教育の質の維持・向上

3. 子どもの育ちや学びの姿のモニタリング

数理認識(数、サビタイジング、図形の合成分解、位置、空間等)

Whelan(2013) *Understanding Mathematics in Early Childhood Education*, Lambert.

Whitin & Whitin(2011) “Mathematical Pattern Hunters” *Young Children* May 2011. NAEYC

語彙 (自己認識、気持ちを表す言葉、など)

運動 (幼児期運動指針、など)

4. 子どもの振り返り・共有ツールとしての活用

多様性への寛容性、知性の扉を多方面にひらく

5. 研修による実践力の維持・向上

研修記録とデータベース化、キャリアアップ制度との連携

乳幼児教育と「未来の教室」・EdTech

乳幼児教育の不易と流行を考える

シンガポールですら、2007年以降 Free Play Based Curriculum

EdTechへの期待

乳幼児の発達的特徴を踏まえ バーチャルではなくリアリティ

経験の多様性にかかわる、モニタリング機能

実際の子どもの育ちと学びの姿の可視化

リフレクション、フィードバック と 共有

特定の評価に支配されずに、しかし、

評価やエビデンスを道具として活用しながら

乳幼児教育の質の維持・向上を 7